

## 様々な制約のある現状下で

### 生活支援員

コロナ禍においてホームでの暮らし方にも、以前とは大きな変化がみられています。毎日のマスクの着用やこまめな消毒。食堂での仲間とのふれあいながらの食事から自室での食事。そして外出の自粛。そんな日常も今では当たり前の情景となりましたが、「利用者が安らげるくらしを、利用者と共に作っていく」を合言葉に利用者の皆さんが充実した毎日を送れるように努めています。

様々な制約のある現状下でも余暇支援として多くのイベントを企画し、利用者の皆さんに楽しんで頂いています。今年度は自分の好きなメニューのテイクアウトやかき氷会、少人数でのドライブ、お墓参



生活支援員

勤続8年 石田以久子



りなどを行ってきました。また帰省や外出が制限されることにより、不安を強く感じてしまう利用者さんには、今まで以上に向き合い、寄り添い一緒の時間を過ごすことにより、信頼関係を深められたのではないかと思います。十月に入り緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ先の見通しはつきません。今後も利用者の皆さんに楽しい毎日を送って頂けるよう創意工夫していきたいと思えます。

## むねと...

### ほっぺ

館林邑楽相談支援センターほっとでは、現在2歳のお子さんから90歳の高齢の方まで、障がいをお持ちの約九百人の相談者があり、ご本人やご家族の日常生活や社会生活を営む上で、お困りな事や悩み等の相談を受け、ご本人が望む生活に近づけ、自らが選択していけるように、様々な関係機関と共にチームとなり、福祉サービスの案内や調整、社会参加等の情報提供を行っております。

相談を受けていく中で、相談者やそのご家族が前に進めず立ち止まり、時には後ずさりする気持ちになることもあります。そんな時でも、私達相談員は、ともに寄り添いながら、再び前を向いて一歩踏

み出せることを信じ、見守って待つことも大切な事だと感じています。

今後も、新たな感染症や自然災害への不安は続くかと思えます。又、少子高齢化の中で、家族や地域で支えあう力も弱まる中、私達は、地域での課題を自立支援協議会に吸い上げ、関係機関の皆様と共に協力しながら、より良い地域福祉の発展に繋げていく役割も担っております。

オリンピック、パラリンピックで感動した時の、世界の共通である『笑顔』とともに、微力ではありますが、一歩前へ踏み出していききたいと思っております。

相談支援専門員

勤続4年 中田陽子